

### 様式3

## 令和6年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号（ 14 ） 学校名 豊田市立寿恵野小学校

### 1 テーマ

「共に学び合い、共に育ち合う すえのっ子の育成」

～地域に開かれた学校を目指し、子どもたちの学習への支援活動を充実させる～

### 2 ねらい

- ・講師陣の専門性を生かし、学校の諸活動に取り入れる中で、深まりのある学習をめざす。
- ・地域の方に支援をしていただくことで、児童の学習活動を円滑にしたり、交流をもったりすることができる。

### 3 活動内容

#### ① 地域講師による読み聞かせ活動

- ・朝の学習の時間帯に、季節や学年の実態・行事に合わせた内容の本の読み聞かせを行い、豊かな情操教育を育む。

#### ② 外国語ボランティアと担任で行う外国語活動

- ・地域の方を外国語活動のボランティアとして招聘し、ネイティブな英語に触れたり、外国の文化に触れたりする学習の機会をもつ。

#### ③ 地域講師を招聘した授業

- ・学習の効率化、円滑化を図った地域講師を活用した授業
- ・環境学習（ビオトープ）、栽培活動、米作りなどの活動を通して、講師の専門的なアプローチによる深まりのある学習の蓄積

#### ④ 地域の方による学習ボランティア支援

- ・家庭科（5・6年の調理実習、5年生の手縫い、6年生のミシン学習）において訓練が必要な作業支援
- ・1年生の昔遊びを教えていただく講師
- ・おしどり会のご指導による大豆の栽培・収穫体験
- ・1・2・3年の生活科や社会科の中で、校外学習を安全に遂行するための引率

### 4 成果と課題

#### （1）成果

- ① 「おはなしプルプル」による朝の読み聞かせにより、子どもに読書習慣が定着してきている。毎回、季節や行事、子どもの実態に合わせた本を選択していただいているおかげで、興味をもって真剣に聞いている姿が見られ、じっくりと読書の世界に浸ることのできる時間として、楽しみの一つとなっている。また、この時間を通して、地域の方と触れ合うことができており、最終回にはお礼の手紙を渡すイベントも行う。保護者アンケートでは、84%の保護者が「学校は読書環境を整え、読書に親しむ活動を進めている」と評価している。

- ② 外国語活動では、学級担任と外国語ボランティアが役割分担したことで指導が円滑になり、子どもたちは「季節に合わせたイベントやアクションゲームが工夫されていて楽しい」と心待ちにしていた。授業だけでなくお昼の放送でDJ風に英語の歌を流し、子どもたちが自然に英語に親しむ環境づくりをしてくださった
- ③ 地域講師を招聘した授業として、2年生・5年生・特別支援学級の米作り、低学年・特別支援学級の花や野菜栽培の講師を1年間お願いしたこと、地域や農業への関心高めることができた。また、3年生の大豆栽培では自治区の方に地域講師をお願いし、専門的な指導を受けることができた。保護者アンケートでは、82%の家庭に、特色ある学校づくり推進事業として、貴重な体験学習ができることへの賛同をいただいている。
- ④ 学習支援として、主に家庭科の作業支援を行った。5年生の手縫いの単元では、玉結びにつまずいている児童が多く、個別に支援していただくことで確実にできるようになった。6年生のミシン縫いの単元では、布の厚さによってミシンの調子が変わり、担任一人では子どもたちの支援に手が回らなかつたが、一人一人の困りごとに対応していただくことで、子どもたちが安心して学習に取り組むことができた。調理実習でも、児童が安全に作業できるように、声掛けをしていただいた。また、1年生の昔遊びの講師として、あやとり・めんこ・コマ回し・けん玉・おはじき等の遊びを、子どもたちに教えながら一緒に楽しんでいただいた。

さらに、生活科や社会科の中で行う校外学習を引率していただいたことで、児童が安全に活動することができた。

⑤ 保護者・地域への情報発信の取組実績

ホームページをほぼ毎日更新し、2年・5年・特別支援学級の米作りや栽培活動、4年のビオトープを中心とした環境学習、3年の大豆の学習をはじめとする「特色ある学校づくり推進事業」の取組、学校行事や各学年の取組を紹介した。

## (2) 課題

本校の特色の1つにビオトープを扱った活動がある。地域のボランティアグループのおしどり会・竹の会・ホタルの会が整備に協力をしてくださっている。また、幸いなことに毎年、ビオトープの設置会社である株式会社鈴建の日高様をはじめ、アスクネット・トヨタ自動車堤工場の皆様・矢作川研究所の方々の支援を得て、整備の方法や環境を学ぶことができている。そのため、4年生の総合的な学習の時間を活用したビオトープの学習に、子どもたちの関心は高まっている。

しかし現在、ビオトープを設置してから年月が流れ、ビオトープの整備に精通した職員や地域関係者が減ってきた。ビオトープは自然に近い環境を維持するために、手入れが必要である。昨年度、6年生が卒業の記念として橋を新しく架け替えてくれたが、まだまだ各所の痛みがひどく、ビオトープの維持・管理に必要な大規模な作業や機械類の修繕・更新などを、どのように進めていくのかが課題になりつつある。